

Forest 通信 6 H30

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.352

巻頭
Photo

高尾山の生きものたち ミソサザイ (ミソサザイ科)

谷で響きわたるミソサザイの声。「ピピピ チュル チュル チリリリ・・・」などと、透き通るようで心地よい。高尾山周辺でもときどき聞く。

日本最小クラスの小さな鳥で、地面のような茶色をしていて目立たないが、丸っぽい身体で短い尾を上にして、大きく口を開けてさえずる姿が愛らしい。一夫多妻で、雄はたくさんの妻を射止めようと、早春からなわばりにいくつかの巣をつくり、あちこちを移動して声を響かせる。

ミソサザイは、樹木が多い溪流沿いで繁殖する。そこは、餌となる昆虫などが多く、巣ができる岩や大木がある。このような豊かな環境があるから、心地よいさえずりが聞こえる。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.33

～朴 (ホオ) の木～ (モクレン科)

ホオノキは全国に分布する高木の落葉広葉樹で高尾山にも広く見られます。

大きな葉が特徴で、40cmになるときがあります。名前の由来は定かでは無く「冬芽を含む(ホホム)」などの説があるようです。

木材としては、木理は通直、肌目も緻密、材質は軽軟で加工性がよく狂いも少ないため用途は装飾材、建具、器具、細工物に多く使われています。

特殊な使い方としては、製図板(今はヒノキの合板が主流)、下駄歯、まな板、刃物の鞘があります。特に鞘は刃物が触れても刃が錆びずに傷めないとされている事から日本刀の鞘として使用されています。その他、ホオノキを原料とした炭は、研磨炭として漆器や金属の研磨に使用されています。

もちろん、葉に芳香があり、殺菌作用があるため食材を、包んで使う朴葉寿司や朴葉餅、焼いて

使う朴葉味噌や朴葉焼きが郷土料理として有名です。

ホオノキの心材は緑色をしており、材面を触ると柔らかく温かい感じがする癒やし系の木材です。(皿)



(ホオの木目)

(幹)



ホオノキの花

公募
イベント

森林カレッジⅠ ～森林の見方～

5月19日に平成30年度森林カレッジⅠが開催されました。このイベントは森林林業に興味を持つ一般の方を対象に同一メンバーを対象に、年4回開催しています。

第一回は森林・自然環境技術者教育会会長の桜井尚武先生を講師としてお招きし、「森林の見方」と題して講義と森林観察を行いました。午前の講義では森林の持つ多面的機能や天然林と人工林、単層林と複層林、針葉樹と広葉樹、日本の森林植生について等広範囲にわたっての学習となりましたが、時折先生から発せられるジョークにも癒やされながら、アットホームな雰囲気での学習となりました。



桜井先生の講義に熱心に聴きいるカレッジ生達

午後は稲荷山歩道のルートを使用しての森林観察です。今回は事前の天気予報では雨が予想されていましたが、さわやかな初夏の空気に包まれて無事に出発できました。今年は高温の日が続いていたので木々の緑もだいぶ深い色に変わり始めていました。



稲荷山コースへ

高尾山周辺は日本屈指の多様な植生を誇るだけあって、尾根筋を隔てて南北で林相や樹種が様々に変化をしています。参加者の中には高尾山周辺をホームグラウンドとしている方もいらっしゃいましたが「普段の山歩きでは意識しなかった発見がたくさんあった」といった意見も聞かれ、有意義なプログラムであった様子です。今後も森林カレッジを通して、参加者の皆さんに森林林業について一層の研鑽を図っていただければと思います。(磯)



旭稲荷神社にて。「稲荷山コース」の名の由来の神社



樹木の解説



1日終わりに、感想を語り合いました

出前 森林教室

八王子市立 みなみ野小学校

八王子市立みなみ野小学校では、毎年3年生全員が校庭にある樹木の中からお気に入りの木を「ぼくの木・わたしの木」として選び1年間を通して観察する学習が実施されております。今年は例年より一足早い連休前の5月1日と、連休明けの5月10日の実施となり、当センター職員が学校に出向いてそれぞれの木の特徴や生長について説明を行いました。

1回目の5月1日は、子ども達が自分の木を選ぶための座学で、校庭にある木の中で子ども達が興味を持ちそうな、サクラやウメの木といった花が咲く木や実のなる木、大きくどっしりとして目を引くケヤキやクスノキなど33種類の木について、木の特徴や名前の由来などをパワーポイントを使い説明を行いました。子ども達は、説明を熱心に聞きながら、「この木知ってる」「お花がきれい」など様々な声が聞かれ、どの木を選ぼうか迷っている様子でした。

2回目の5月10日は5班に分かれ、子ども達が選んだそれぞれの木の前で、その木を選んだ子ども達を中心に、木の姿を見てもらったり、木の肌や葉に触れたりしてもらいながら説明を行いました。当日は雨が降ったりやんだりの天気で、傘を差しながらの観察となったため十分な観察できなかったのか、場所を教室に移しての質問時間には次から次へと疑問が続き、職員は回答に四苦八苦でしたが、予定時間の大幅な超過に助けられてどうにか終了することができました。最後に、2年後に高尾で実施する森林教室での再会を約束し、学校を後にしました。(谷)



雨の日には雨の日の良さが
あります。葉っぱの色が、
鮮やかに見えたり・・・

炭焼き体験

横浜市立 谷本小学校

5月17日～18日に、横浜市立谷本小学校6年生の児童75名が森林教室と炭焼き体験を行いました。谷本小学校は、例年この時期に2泊3日の宿泊体験を実施しており、学校の敷地内の竹林整備の際切り出される竹を材料にして炭焼きを行っています。今回炭にする竹は、昨年12月、当時5年生だったときに竹割りをしたものです。

炭焼施設前で炭焼方法の説明後、伏焼き窯班とドラム窯班に別れ、窯への竹材詰めと団扇で窯の中へ熱風を送り込む暑くてきつい作業を体験してもらいました。

午後は、職員が木の生長について説明し、その後丸太切り体験へ。全員鋸の使用経験はあるとのことでしたが、切断面が節に当たった子はなかなか切れず四苦八苦していました。

翌18日、窯閉めの説明後早速窯出しを開始、各窯とも見事な炭ができあがり子ども達も大喜び。思い思いに手に取り、叩いて音を聞いてみたり、折って断面を確認したりしていました。

続く森林教室では、DVDと職員が作成した資料を使って森林の働きと環境について説明を行いました。子ども達からの質問には、「気候変動対策の『パリ協定』からどうして離脱する国があるの?」など、大人顔負けの質問に、事前学習ぶりが伺われました。

森林散策では、職員が樹木や植物の名前の由来と利用方法について説明を行いました。座学とは異なり、実際に植物を目にしながらの説明はひと味違うようで、熱心に聞き入っていました。

閉講式では、「炭のできあがりを実際に見ることができ勉強になりました。良い思い出となりました。」「今回教えてもらったことでますます自然について興味がわきました。また高尾山に来て自然環境について学びたいと思います。」との感想と、一人一人からのメッセージを綴った冊子が手渡され、職員一同汗を流した甲斐があったと感じたところです。

センターからは、「今回の経験を通じ、中学生、高校生、そして大人になっても森林や自然環境に関心を持ち勉強を続けていただければ幸いです。」との希望を伝え、森林教室を終了としました。(高)



思った以上の質とできばえに、子ども達も大興奮! 壊れないように持って帰ってね



森林教室

八王子市立 みなみ野君田小学校

5月22日に八王子市立みなみ野君田小学校5年生121名が森林教室を行いました。

大人数のため、二つのグループに分かれて、午前と午後にプログラムを入れ替えて実施しました。プログラム①は森林学習と丸太切り、②は森林散策です。

森林学習はパワーポイントを使って高尾山の動物、間伐の方法、地球温暖化、森林の働きなどマツボックリがエビフライのような形になっているのはなぜか？どの動物が食べたのか？などの質問形式で子ども達から答えを引き出しながら学習しました。

森林学習が終わると屋外での丸太切りです。初夏の日差しの中、汗びっしょりになってノコギリを振りまわしました。薄く切った輪切りを太陽にかざしてみたり、木の皮をむいてきれいにしたり、中には家族へのプレゼントとして10枚も切った強者がいました。

森林散策では、林道脇にできた水たまりにカエルの卵やオタマジャクシに触ったり、沢の水に触れて「冷たくてキレイ」などの歓声を上げて喜んでいました。子ども達楽しいことや興味のあることに目がキラキラ輝いているのがとても印象的でした。

閉校式では大きな声で「センターのみなさん、ありがとうございました。」と感謝の言葉を残して帰路につきました。(田)



見たことない葉っぱがあるよ



サワガニ見つけた！



西野保育園 森林教室

初夏の気配が感じられたほかほか陽気の5月14日、三鷹市の西野保育園へ毎年恒例の森林教室に伺いました。

元気な年長さん達の挨拶に迎えられ、まずは森林について紙芝居でわかりやすく勉強しました。

次は丸太切り体験です。職員もちょっとだけお手伝いしましたが、みな1枚切るとコツをつかんで夢中で何枚も切っていました。

木の輪切りに好きなイラストを描くキーホルダー作り体験では、テーブルの上にはぱっと花が咲いたようなカラフルなキーホルダーが並びました。

今年も元気なみんなに会えて、職員一同とてもうれしかったです。また来年会おうね！(松)



木の輪切りに絵を描きます。みんな上手！



丸太切り体験。まっすぐに切れたよ！



編集後記

すっかり夏の気候になった高尾山、目に入る山の緑、梅雨に入る直前ひとときのまぶしい新緑を楽しんでいます。もうすぐ湿気ムシムシになりますが、キノコが生えてくるのでそれはそれで楽しいです。センター横の木製階段にもたまに生えてきます。(松)

Forest 通信 NO.352

発行:林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先
林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>